

浴室見学会
生活介護課長 渡邊 久子

今年度4月に介護報酬の改定があり、ご家族様に料金の説明を兼ね、リニューアルした浴室の見学会を行いました。30名様程ご参加いただき、契約手続きに時間を要するので、手続きのグループと浴室見学のグループに分けてご案内しました。

ご家族が地下に行くことはほとんどないため、エレベーターを降り、右手に明るい光が射す浴室の入り口が見えると、「地下なのに…」とまず驚かれました。リニューアルした浴室は整容のため鏡を設えた部屋から始まり、リハビリを兼ねた段差を2段上がって浴室に入ります。バスタオルと同じ色の棚、赤い扉、どこからでもつかめる赤い手すりなどが目を引いたようで、「わぁーきれいですね」と声が上がりました。浴室に入り、ヒノキの浴槽の入り方などを説明していると、「私が入りたいくらい」と言って

いただいたほか、「私の母もこのお風呂に入っているんですか？」などのご質問もありました。下肢が曲がらず個浴に入れない方用の洋風バスについてもご説明しました。皆さん、介護技術よりもヒノキの浴槽に興味津々なご様子でした。



フレンズホーム入居者家族懇談会後に浴室を見学

スポットライト 職員紹介 No.4

管理栄養士 山西 瑞穂

美味しい食事を提供したい

私は栄養士の資格取得後、管理栄養士としてクリニックで栄養相談の仕事をしていました。クリニックには生活習慣病のため、食事制限している患者様がたくさん来院され、食事は人生を豊かにするものと考えていた私は、その仕事にジレンマを感じるようになりました。そして、平成25年8月、転職を決意しフレンズホームに入職いたしました。当時、フレンズホームは行き過ぎた栄養ケアの結果、ソフト食とペースト食

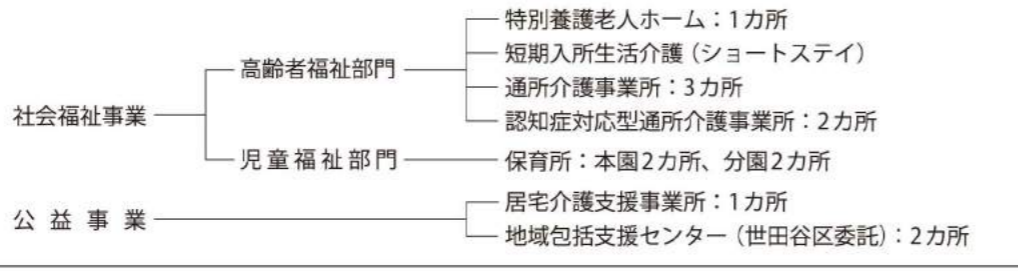
が大半を占めていましたが、飯田施設長の「入居者に美味しい食事を食べさせてあげたい」という強い想いがあり、常食化に向けて取り組みを始めた時期でした。前任者から基本的な作業について、私より1カ月程前に入職していた栄養士が申し送りを受けていましたが、私たちにとっては、ほぼ全てのことが一からのスタートになりました。始めに、与えられたテキストで嚥下機能について学び、食事委員の一人として介護職員と一緒にアセスメントをしながら、常食化に取り組みました。1週間もたたないうちにソフト食から常食へと食事形態が上っていき、ペースト食から常食になる入居者もおられました。「美味しい」

と言ってくれる入居者の笑顔に、最期を迎えるときまで人間にとって食べるということがいかに大切かを教えられました。その後も義歯を作成するなど、口腔内の環境を改善することで食形態が向上する入居者が増えていきました。管理栄養士としてこの経験を忘れず、入居者のために美味しい食事をこれからも提供していきたいと思っています。



完食した入居者と（月2回のフレンズレストランで）

日本フレンズ奉仕団事業概要
(平成30年7月現在)



編集後記

本号の表紙にインパクトを感じていただけたでしょうか。印刷物で介護福祉施設のショットに職員の食事風景が使われることは多分、なかったことでしょう。介護の情報として伝えられる現場は常に利用者に光が当たります。従来型の特養ホームであることを梃子に、フレンズホームは施設ケアの可能性を追求しています。その延長線上に職員の働き甲斐があります。働く現場の中にある職員食堂が職員ファーストに見合う場に変身し、表紙に登場することになりました。(1)

扉

新しい福祉サービスの創造へ
TOBIRA



会議を終えて — 壁の絵画は利用者ご遺族からの寄贈



楽しくランチタイム

カフェ・ダイニングの誕生 ~生まれ変わった職員食堂~ 2

フレンズホーム施設長 飯田 能子

扉を開けて おともだち保育園から「こんにちは」 3

おともだち保育園 園長 立花 雅子

フレンズ・トピックス 4

浴室見学会.....生活介護課長 渡邊 久子
スポットライト 職員紹介 No.4 管理栄養士 山西 瑞穂



社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団 広報紙「扉」 第4号

- 発行日：2018（平成30）年7月1日
- 発行所：社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団
東京都世田谷区下馬2-21-11
TEL.03（3422）7211 FAX.03（3422）7227
http://www.n-friends.or.jp
- 編集・発行人：飯田 能子

カフェ・ダイニングの誕生

～生まれ変わった職員食堂～

職員食堂は「蚊帳の外」に

介護施設は利用者の居住スペースに多くの光が当てられ、新型特養の発想の中心は、ユニットごとにキッチンを中心とした共有スペースで職員が入居者に寄り添いながら個別ケアを実現するというコンセプトにあります。しかし、そこで働いている職員のための空間については、格別、議論がされてこなかったようです。

職場の働き方改革へつなげる第一歩

築28年のフレンズホームは、保育園・ケアセンターとの合築による地下1階、地上4階の複合施設で、地下には浴室、厨房、職員の



ゆったりとした椅子で

ロッカー室、職員食堂等が配置されている従来型特養です。平成29年度には買い替え時期を迎えた機械浴槽を廃止し、ヒノキ風呂による個浴ケアへの転換を図り、浴室を全面改修しました。自立支援を考慮した浴室・脱衣室・休憩室は、入居者のQOLの向上に効果があったことは勿論ですが、壁や床の材質・色彩にこだわり、南仏をイメージした明るい室内は、介護職員にも働きやすい快適な空間に生まれ変わりました。

職員ファーストのための改修

平成29年度には、このほかに職員食堂の改修工事を予算化し、3月中旬に着工、月末に完成しました。改修の目的は第一に、使い勝手の悪さの解消にありました。



入り口から内部を臨む(6人掛けのテーブル2台)

廊下を挟んだ調理室から主菜、副菜の皿をトレイに取り、食堂で保温釜からご飯と汁物を器に入れる、というシステムですが、ネックになっていたのは、食堂内でのトレイの運びづらさでした。改修工事により、保温釜3台が載る専用台にレーンが取り付けられ、コーヒーメーカーとカップを収納する食器棚を特注し、座り心地の良い椅子と4人掛けのテーブルに買い替えました。



左: コーヒーメーカーの入った食器棚
右: レーンが取り付けられた専用台



テラス席—ドライエリアを有効活用

特養ホームは、平成12年の介護保険導入によって、それまでの措置から利用契約による施設へと転換しました。「利用者本位」が施設ケアの原則としてすべてに貫通しています。全室個室の新型特養の制度化から16年が経過した今、新型特養は全施設の約4割を占めるまですべてになっています。2年後に30周年を迎えるフレンズホームが、建て替えを待たずに職員食堂の改修にお金をかけるのはなぜか。十数年先の建て替えの準備だけが優先されるのではなく、今働いている職員を大事にしていきたい、という施設長の「職員ファースト」からの発想でした。

介護職場の福利厚生

介護人材の確保と定着に必要なこととして、キャリアアップのための育成システムの確立や職場のIT化による業務省力化、福利厚生の充実などが求められています。日々の業務の中で「一息つける場所」を職場の中に確保することも福利厚生の施策の一つです。改修された食堂は、照明器具、壁と床の色にこだわり、調度品にも



4人掛けのテーブル3台とレーン

2

扉を開けて

おともだち保育園から「こんにちは」



おともだち保育園本園とフレンズホームには、二つの施設をつなぐ扉があります。

この扉が開かれるのは、毎月、高齢者の方々と交流するときです。おともだち保育園本園、分園こまどめ、おともだち・ララ保育園の4歳と5歳の子どもたちと担任保育士が、この扉から訪問します。この日、少し緊張した面持ちで扉をくぐり、フレンズホームの職員の方の案内でエレベーターに乗って3階の会場に行き、保育園で歌っている歌やダンスを見ていただき、一緒に手遊びなどを行い、ふれあいのときを過ごしました。大きな拍手をもらったことで子どもたちの緊張が和らぎ、嬉しさと照れくささでこころが満たされる時間です。握手をして帰るときに「上手だね」「可愛いね」「今日はありがとう」「大きくなるんだよ」「また来てね」と声をかけていただきました。

子どもたちは、ありのままを受け入れてくださる高齢者の方々の思いやりや優しさに包まれる素敵な時間を過ごしています。(おともだち保育園 園長 立花 雅子)

(2頁からつづく)

新調したテーブルと椅子、豆から淹れる新型コーヒーメーカー、特別仕様の食器棚が入りました。名称も職員食堂改めカフェ・ダイニングになりました。「名は体を表す」というように、挽き立てのコーヒーを出勤時一杯という光景も普通になり、昼食時に談笑する職員の姿が見られるようになりました。何よりも、コンビニ弁当をスタッフルームで食べていた職員が施設の昼食をし



廊下側のガラス戸



楽しかった

手が温かった

嬉しかった

手がかかった

かりとるようになりました。時には会議や打ち合わせの場所にもなり、カフェ・ダイニングは職員食堂に仕事プラスαをもたらししているのです。

利用者本位・職員ファーストの両方でフレンズホームは発信し続けます。

(フレンズホーム施設長 飯田 能子)



レトロな伝言板も一役買って

3